

高校期からのステロイド使用後の顔面浸出・関節部亀裂を経て IgE が低下傾向となった成人アトピーの経過 (27 歳 成人)

症例 ID：001-20-US | 記録日：2013 年 8 月 11 日

1. 診断・治療前経過

17～18 歳頃にアトピーと診断され、ステロイド外用薬を継続しました。24 歳頃にステロイドを自己中止した後、耳・頸部から黄色い浸出液が出て、眼瞼が腫れました。その後、松本医院を受診し、漢方治療と外用処置を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	高校期から 24 歳頃までステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	約 6～7 年間使用したと考えられます。
中止時期	24 歳頃に自己中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
17～18 歳	診断・治療開始	アトピーと診断され、ステロイド外用を開始しました。
24 歳頃	中止	ステロイド外用を自己中止しました。
中止後	急性悪化	耳と頸部から黄色い浸出液が出て、眼瞼が強く腫れました。
松本医院受診後	治療開始	漢方治療と外用処置を開始しました。
治療中	強い症状	口周囲・鼻周囲の亀裂で会話と食事が難しく、左肘の亀裂で曲げ伸ばしが困難となりました。
治療約 2 年半	検査値の変化	IgE 値が低下傾向となりました。
記録時点	経過中	頸部と肘周囲のかゆみ・赤みは残りましたが、徐々に軽減していました。

4. ピーク時期

ピークは、顔面から黄色い浸出液が出て眼瞼が腫れ、口・鼻周囲の亀裂と左肘の亀裂により会話、食事、関節運動が困難となった時期です。

5. 困りごと

- ・顔面の浸出液と腫れにより、対人場面が負担となりました。
- ・口・鼻周囲の亀裂で会話と食事が困難でした。
- ・左肘の亀裂で曲げ伸ばしが制限されました。

6. 経過のまとめ

ステロイド中止後に顔面浸出、眼瞼腫脹、口・鼻周囲と肘の亀裂がみられました。治療約2年半後にはIgE値が低下傾向となり、頸部・肘周囲の症状を残しながらも徐々に軽減していました。症状には波があったものの、通院の経過の中で皮膚症状に前向きな変化がみられた症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。